

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671200255		
法人名	有限会社 敬友会		
事業所名	グループホーム花乃苑石井		
所在地	徳島県名西郡石井町藍畑字東覚円70番地3		
自己評価作成日	平成26年11月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成27年1月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

苑内の明るさ、清潔を職員、利用者共に大切にしている。広々とした空間で、四季を味わっていただく。職員全員が、利用者一人ひとりと向き合い、思いや願いを理解し、寄り添ったケアを心がけている。家族様ともできるだけお話できる機会を作り、ニーズに添ったケアの実践を心がけている。苑での生活をホーム便りや、生活状況を送らせていただき、利用者の生活を身近に感じられるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、田園地帯の静かな環境に位置している。事業所では、“住み慣れた地域の中で、自分らしく笑顔のたえない、我が家をめざし、信頼あるケアを提供します”の理念のもと、地域の幼稚園や小学校との相互交流や婦人防火クラブとの合同避難訓練の実施、住民の協力を得て祭りを開催するなど、地域との交流を大切にしている。また、すべての食事を事業所内で作り、利用者職員で力を合わせて調理している。利用者職員で同じテーブルを囲んで楽しく過ごしており、家庭的な雰囲気を大切にしている。職員は、利用者や家族の意見を大切にしており、出された意見を運営面に反映するなどの取り組みも見受けられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			さくら 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼で理念を読み上げるようにしている。また、苑内の目のつく場所に掲げ、常に意識し、同じ方向に向かいケアに携わるようにしている。	全職員で、地域密着型サービスの意義について意見を出し合って作成した理念を掲げている。理念の見直しも行っている。理念の掲げる事業所の使命を大切に捉えており、掲示したり、申し送り時に唱和したりして実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り、秋祭りや、避難訓練など地域の方々の参加がある。また、地元の小学校児童や、幼稚園児が来苑され、表現会等、交流できている。時折、以前来られた児童らが、遊びに来てくれることもある。	事業所では、地域住民との交流を大切に捉えている。地域住民の協力を得て秋祭りを実施したり、婦人防火クラブとの避難訓練等を行ったりしている。また、地元の小学生や幼稚園の表現会に招待してもらうこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に出席して下さる民生委員や、役場の方々にケアの拠点として出来ることはないかと伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実際、取り組み状況の報告を行なっている。議題を上げ、話し合いを行いサービス向上に繋がるように心がけている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。利用者や家族、民生委員、町担当者、地域包括支援センター職員等の出席を得ている。会議では、利用者の状況や今後の行事の予定、事業所の取り組みなどを報告している。議題について意見交換を行い、出された意見を運営面に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場の方々や、包括の方々等とは連携を取り、時には相談に乗っていただき、問題解決にむけて取り組んでいる。	職員は、頻りに町担当窓口を訪問している。また、様々な相談を行って助言を得るなど、町との協力関係を大切にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に拘束をしないケアの実践に心がけている。勉強会を行い、意識の向上に努めている。	管理者と職員は、身体拘束の具体的な行為や弊害の理解に努めている。ヒヤリハット事例に基づく勉強会の機会を持っている。ヒヤリハット事例の検討も行っている。施錠を含め拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、虐待の起こらないよう注意をはらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			さくら 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を利用している方がいっしょやるため、機会あるごとに職員への説明を行い、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、家族の不安や疑問点を十分理解し、納得されるように時間を作り説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が気軽に意見を言えるような環境づくりを心がけている。	意見箱を設置したり、相談窓口を明示したりしている。毎月の利用料支払い時には、家族が意向等を表出しやすいような対応に留意している。家族会を開催して様々な課題についても検討できるようにしている。家族の意向に応じて協力医療機関を変更するなど、一人ひとりの意見を大切に運営している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から、コミュニケーションをとりあい、積極的に意見が言い合える、提案できるようにしている。	管理者は、職員との信頼関係の構築に努め、一人ひとりが意見を表出しやすい環境作りに努めている。職員から出された要望等は、代表者にも伝達するようにしている。しかし、自己評価の作成や目標達成計画を一部の職員のみで実施するに留まっており、全職員で課題分析や目標設定を行うまでには至っていない。	自己評価は、全職員が事業所運営に関する実践状況を振り返る機会であることから、一部の職員のみで取り組むのではなく、事業所として定めた目標に向けて実践すべきことを全所的に話しあうことが望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場で起きている状況や変化を知り、職員が安心して働ける環境を作っている。研修にも積極的に参加し、向上心を持って働けるように心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑内、外での研修の機会を設けている。外部に依頼し苑で講習を行なっていただくようお願いしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の福祉施設の方々と交流の場を持ち、良いところを吸収しサービスの質向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			さくら 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や思いを理解し、寄り添ったケアを実践し、信頼関係を築き安心して過ごしていただけしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が体験してきた苦労を理解し、困っていることはないか、ニーズは何なのかを十分に聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを開始する前に可能であれば、本人と面会し、短時間でも話をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であるという考えを職員全員がもち接するように心がけている。「共に過ごし、学び、支えあう」関係を築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際は、利用者の状況を話すようにしている。遠い家族には便りにて本人の様子をお知らせしている。必要であれば電話を掛ける。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お墓参りや、なじみのお店などに機会があれば出向いて行くようにしている。家族や知人の面会が少ない方には、電話を掛けたり、手紙を送る等の支援をしている。	毎月、利用者と担当職員でお墓参りへ出かけている。また、馴染みの美容院への送迎や、家族へ手紙を出す支援を行っている。利用者一人ひとりの馴染みの人や場所との関係が途切れることのないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を全員が把握し、トラブルが起きないように、楽しく苑生活が送れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			さくら 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方の家族が来苑されることもあり、現在の状況を知らせてくれたり、手紙でのやり取りも行なっている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常での表情の変化や言動からも思いや願いを把握するように努め、職員間で情報を共有している。	センター方式のアセスメントを取り入れ、利用者一人ひとりの詳細な思いや意向を把握するよう努めている。日頃の利用者との関わりの中で、移り変わる思いや意向を把握し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や、家族、知人から情報をいただき、生活歴や馴染みの暮らし、生活環境を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のペースに合わせるようにし、状況を総合的に把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には、日頃の関わりの中で意見や希望を聞き、計画に反映している。職員間で意見交換し、必要であれば随時ケースカンファレンスを開催する。	本人や家族の意向と要望は、ケースカンファレンス等の機会に検討し、個別の介護計画の作成へと繋げている。6か月ごとの見直しのほか、一人ひとりの状態や要望等の変化に応じて、そのつど介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルを用意し、毎日の状況が分かるように記入している。情報の共有を図り、ケアの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに応じたサービスを可能な限り提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			さくら 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に包括センターや民生委員が参加しており、周辺情報の交換をし、協力関係を築けている。町の商店や、美容院に行ったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診支援、協力医療機関とは24時間の連携体制をとっている。	利用者一人ひとりの希望に応じたかかりつけ医の受診を支援している。また、協力医療機関と連携し、週1回の訪問診療を受け、体調の維持管理に努めている。緊急時にも往診等で対応できる医療連携体制を構築している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の異常の早期発見に努め、担当医に相談し適切な治療が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者や、家族と連絡を密にし、心身状況など情報交換をしながら、退院支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族とも話し合い、苑で対応できる最大のケアについて説明し、担当医との協力体制も踏まえて安心していただけるようにしている。	入居時の段階で、重度化や終末期に関するケアについて説明している。利用者の身体状況の変化に応じて、本人や家族の意向を把握するよう努め、関係者間で話しあって対応方針の共有化を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生マニュアルを作成し、周知徹底している。普通救命講習の受講をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の火災避難訓練をしている。春の訓練では地域の方々にも協力いただいている。また起震車を使い、地域の方々地震体験を予定している。	年2回、避難訓練を実施している。婦人防火クラブと役割分担を行い、夜間の火災を想定した避難訓練を行っている。また、消防署員の指導を得て、利用者とともに避難訓練を実施している。地域住民や小学生を招いての起震車による地震体験型の訓練も計画しており、地域とともに防災意識を高めることができるよう積極的に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			さくら 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で確認しあっている。勉強会も開催している。	定期的に、適切な利用者支援のあり方等に関する勉強会の機会を設け、言葉かけや行動等について確認し合っている。特に、排泄の失敗や入浴時、居室への入室時などについては、その人の誇りやプライバシーを損なうことのないような言葉かけや対応に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の細やかな事柄や、表情の変化を見逃さないように努めている。表現が難しい方には選択していただくようなアプローチで反応をうかがうようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ベースとした一日の流れはあるが、無理強いはせず、その方のペースに合わせて意向に沿った対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧や、香水をされるかたもいる。毎日の着替えでは、好きな服を自由に着られている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	雰囲気のある音楽を流したり、職員と一緒に買い物に行き食材を選ぶ。行事食を企画したり、季節を感じられる食材やメニューを心がけている。	調理担当職員が中心となり、すべての食事を事業所内で調理している。調理に係る一連の流れを利用者とともに楽しむよう取り組んでいる。調理時の利用者との関わり・声かけや、食事のできばえに関する品評などを行っており、利用者と職員がともに暮らすうえで重要な機会として食事を捉えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を毎食記録し、不足しないように管理している。その方に合った食器や机を使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行なっている。イソジン、緑茶を利用してのうがいを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			さくら 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、出来るだけトイレでの排泄を支援している。	事業所では、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、自尊心に配慮した声かけや誘導を行っている。職員は一部介助を心がけ、排泄の失敗やパット等の使用数を減らし、気持ちよくトイレで排泄することができるよう支援している。夜間にはポータブルトイレを活用することもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分量に注意している。日常の運動機会の確保。必要であれば、医師に相談し、排便コントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調、希望に合わせて入浴している。入浴は午後からの時間となっている。菖蒲湯や、柚子湯を楽しんでもらっている。できるだけ同姓介護を実施している。	早い時間帯の入浴や最後にゆっくりと入りたい方など、利用者一人ひとりの希望と体調に応じた入浴を支援している。また、声かけを工夫し、少なくとも週3回は入浴を楽しんでもらえるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて休息して頂いている。テレビを見ながら眠られる習慣のある方には、他の利用者の睡眠の妨げにならない程度にお願いしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当医、薬剤師からの説明、また、薬状をファイルし全員が把握出来る様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが、それぞれに役割を持ち、日々の生活にやりがいを感じている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力で家族行事に参加したり、天気の良い日は散歩をしたり、買い物に出かけている。季節に応じた外出行事を企画し実施している。	日頃から、事業所では近隣を散歩したり、量販店へ買い物に出かけたりしている。また、神社へのお参りや花見等、季節の外出も計画的に行っている。家族の協力を得た上で、一次帰宅や遠出を楽しんでもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			さくら 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者や家族と相談し、個人ごとにあずかっている。使途の内容は家族に報告し合意の上取り扱っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の同意を得て、一緒に手紙や電話を掛ける支援を行なっている。判断が難しい方は、家族に相談している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下には季節の掲示物を飾ったり、花や鉢植えを置いている。太陽の光を沢山取り込んで明るい共有空間を作っている。	共用空間には、鉢植えや季節の花、雛飾り等を設置している。また、利用者がゆっくりと過ごすことができるようソファや椅子も配置している。事業所内の清掃も行き届いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごせるように、場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や物を使用して頂いている。また写真を飾られている方もいらっしゃる。	居室は、利用者の好みに応じて、和室と洋室から選択してもらっている。また、利用者一人ひとりの使い慣れた家具やベッド、机、収納ケース、テレビ等を持ち込んでもらっている。個室がその人らしい居場所となるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっている。トイレや浴室などの共有部分や、自室が分からない方には、分かりやすいように装飾している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひまわり 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼で理念を読み上げるようにしている。また、苑内の目のつく場所に掲げ、常に意識し、同じ方向に向かいケアに携わるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り、秋祭りや、避難訓練など地域の方々の参加がある。また、地元の小学校児童や、幼稚園児が来苑され、表現会等、交流できている。時折、以前来られた児童らが、遊びに来てくれることもある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に出席して下さる民生委員や、役場の方々にケアの拠点として出来ることはないかと伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実際、取り組み状況の報告を行なっている。議題を上げ、話し合いを行いサービス向上に繋がるように心がけている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場の方々や、包括の方々等とは連携を取り、時には相談に乗っていただき、問題解決にむけて取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に拘束をしないケアの実践に心がけている。勉強会を行い、意識の向上に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払っている	勉強会を行い、虐待の起こらないように注意をはらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひまわり 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を利用している方がいらつしやるため、機会あるごとに職員への説明を行い、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、家族の不安や疑問点を十分理解し、納得されるように時間を作り説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が気軽に意見を言えるような環境づくりを心がけている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から、コミュニケーションをとりあい、積極的に意見が言い合える、提案できるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場で起きている状況や変化を知り、職員が安心して働ける環境を作っている。研修にも積極的に参加し、向上心を持って働けるように心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑内、外での研修の機会を設けている。外部に依頼し苑で講習を行なっていただくようお願いしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の福祉施設の方々と交流の場を持ち、良いところを吸収しサービスの質向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひまわり 実践状況	実践状況	実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や思いを理解し、寄り添ったケアを実践し、信頼関係を築き安心して過ごしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が体験してきた苦労を理解し、困っていることはないか、ニーズは何なのかを十分に聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを開始する前に可能であれば、本人と面会し、短時間でも話をするようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であるという考えを職員全員がもち接するように心がけている。「共に過ごし、学び、支えあう」関係を築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際は、利用者の状況を話すようにしている。遠い家族には便りにて本人の様子をお知らせしている。必要であれば電話を掛ける。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お墓参りや、なじみのお店などに機会があれば出向いて行くようにしている。家族や知人の面会が少ない方には、電話を掛けたり、手紙を送る等の支援をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を全員が把握し、トラブルが起きないように、楽しく苑生活を送れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひまわり 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方の家族が来苑されることもあり、現在の状況を知らせてくれたり、手紙でのやり取りも行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常での表情の変化や言動からも思いや願いを把握するように努め、職員間で情報を共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や、家族、知人から情報をいただき、生活歴や馴染みの暮らし、生活環境を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のペースに合わせるようにし、状況を総合的に把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には、日頃の関わりの中で意見や希望を聞き、計画に反映している。職員間で意見交換し、必要であれば随時ケースカンファレンスを開催する。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルを用意し、毎日の状況が分かるように記入している。情報の共有を図り、ケアの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに応じたサービスを可能な限り提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひまわり 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に包括センターや民生委員が参加しており、周辺情報の交換をし、協力関係を築けている。町の商店や、美容院に行ったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診支援、協力医療機関とは24時間の連携体制をとっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の異常の早期発見に努め、担当医に相談し適切な治療が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者や、家族と連絡を密にし、心身状況など情報交換をしながら、退院支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族とも話し合い、苑で対応できる最大のケアについて説明し、担当医との協力体制も踏まえて安心していただけるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生マニュアルを作成し、周知徹底している。普通救命講習の受講をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の火災避難訓練をしている。春の訓練では地域の方々にも協力いただいている。また起震車を使い、地域の方々との地震体験を予定している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひまわり 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で確認しあっている。勉強会も開催している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の細やかな事柄や、表情の変化を見逃さないように努めている。表現が難しい方には選択していただくようなアプローチで反応をうかがうようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ペースとした一日の流れはあるが、無理強いはせず、その方のペースに合わせて意向に沿った対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧や、香水をされるかたもいる。毎日の着替えでは、好きな服を自由に着られている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	雰囲気のある音楽を流したり、職員と一緒に買い物に行き食材を選ぶ。行事食を企画したり、季節を感じられる食材やメニューを心がけている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を毎食記録し、不足しないように管理している。その方に合った食器や機を使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行なっている。イソジン、緑茶を利用してのうがいを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひまわり 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、出来るだけトイレでの排泄を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分量に注意している。日常の運動機会の確保。必要であれば、医師に相談し、排便コントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調、希望に合わせて入浴している。入浴は午後からの時間となっている。菖蒲湯や、柚子湯を楽しんでもらっている。できるだけ同姓介護を実施している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて休息して頂いている。テレビを見ながら眠られる習慣のある方には、他の利用者の睡眠の妨げにならない程度にお願いしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当医、薬剤師からの説明、また、薬状をファイルし全員が把握出来る様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが、それぞれに役割を持ち、日々の生活にやりがいを感じている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力で家族行事に参加したり、天気の良い日は散歩をしたり、買い物に出かけている。季節に応じた外出行事を企画し実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひまわり 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者や家族と相談し、個人ごとにあずかっている。使途の内容は家族に報告し合意の上取り扱っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の同意を得て、一緒に手紙や電話を掛ける支援を行なっている。判断が難しい方は、家族に相談している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下には季節の掲示物を飾ったり、花や鉢植えを置いている。太陽の光を沢山取り込んで明るい共有空間を作っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごせるように、場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や物を使用して頂いている。また写真を飾られている方もいらっしゃる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっている。トイレや浴室などの共有部分や、自室が分からない方には、分かりやすいように装飾している。		